



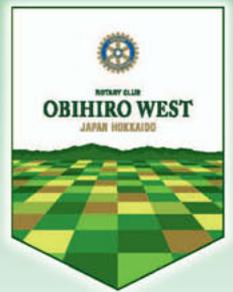
世界へのプレゼントになろう

# 帯広西ロータリークラブ

## 第2110回例会

### 2015.10.8

# 会報



■RI第2500地区テーマ■

もっとロータリーを楽しみましょう



■クラブ・テーマ■

大切な人にまごころを贈ろう

### 会長報告

大友広明 会長

みなさんこんにちは。先週の第一例会、東堂ガバナーをお迎えしての公式訪問例会とクラブ協議会で、理事、委員長さん、大変お疲れ様でした。お礼申し上げます。これで、また一つ大きな事業が終わりほっとしております。また、来週ですが、金曜日から地区大会が旭川の地で行われます。総勢36人の登録を頂いております。皆さんと、特に夜の懇親会を楽しんでまいりたいと思っております。

話題は変わりまして、早いもので次々年度の会長を選出する時期がまいりました。先週の理事会で審議いたしました結果、クラブ細則第3条第1節に従い、指名委員会の設置をお願い致します。12月3日の年次総会に向けて宜しくお願い致します。

委員長に鈴木亨会員、副委員長に川田章博会員、齊藤憲生会員、深澤知博会員、越智孝佳会員、以上パスト会長5名、オブザーバーで会長大友広明、幹事太田豊で宜しくお願い致します。

今日は、毎年10月は、リサイクル推進月間になっております。10月1日の勝毎に掲載していました、3R推進についてお話しします。限りある資源をできるだけ有効に使い、環境と経済を両立する「循環型社会」を目指して政府が推進しているのが3R運動です。1991年の「再生資源利用促進法」施行を機に、毎年10月はリサイクル推進月間に定められました。2002年には、「3R推進月間」に変更されました。まず一つ目のRはリデュース、ごみを少なくすることから始まります。何かを買う前に本当に必要かどうかを考えたり、毎日の買い物にはマイバックを持参したり、ごみを増やさぬよう心掛けることです。二つ目のRはリユース、繰り返し使うことです。洗剤や化粧品など詰め替えできるものは詰め替えで容器を繰り返し使い、不用になった衣類はリフォームやフリーマーケット、リサイクルショップを活用することです。三つ目のRは、リサイクルです。資源の再生利用ですが、ごみの分別も運動のひとつです。各市町村で定められた分別方法に従って、ごみを出すのはもちろん、新聞紙や古紙は回収業者に引き取ってもらったり、再生紙など再生品を活用することですので、ぜひ皆さんにも3R推進にご理解いただければと思います、会長挨拶といたします。



### 会務報告

太田 豊 幹事

- ①帯広南RC、10月12日(月)の例会は、祝日のため休会と致します。  
帯広北RC、10月16日(金)の例会は、休会と致します。  
帯広南RC、10月19日(月)の例会は、休会と致します。  
帯広西RC、10月29日(木)の例会は、休会と致します。
- ②帯広東RC、夜間移動例会開催のご案内  
日 時 10月20日(火)午後6時30分  
場 所 幕別パークホテル悠湯館
- ③帯広RC、移動例会開催のご案内(清掃活動)  
日 時 10月21日(水)午後0時30分  
場 所 帯広児童会館
- ④帯広西RC、夜間例会開催のご案内  
日 時 10月22日(木)午後6時30分  
場 所 北海道ホテル
- ⑤帯広北RC、移動例会開催のご案内(育樹事業)  
日 時 10月23日(金)午後0時30分  
場 所 北の杜(帯広の森内)



### 委員会報告

#### 出席委員会

小谷典之 委員長より出席率の報告

7月出席率	94.2%
8月出席率	92.6%
9月出席率	94.0%



### ニコニコ献金

親睦活動委員会 河西智子 委員長

大友広明 会長

10/1の勝毎に“10月は環境推進月間です”と会社と(社)産業廃棄物協会の記事が載りました。皆さん、資源は無限ではありません、有限です。3R推進運動、宜しくお願いいたします。

太田 豊 幹事

音大生の長女が、このたび念願の東京芸術大学・大学院に合格いたしました。父親に似てなくて良かったです。あと2年仕送り頑張ります。



会長 大友 広明  
幹事 太田 豊

副会長 若林 剛  
副会長 萱場 誠一

会場監督理事 飯田 正行  
プログラム委員理事 松見 喜明

発行：広報委員会  
委員長 工藤 正宏 (副)伊東 肇



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)  
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

#### 増井信也 委員長

本日、国際奉仕委員会担当例会です。よろしくお願  
いします。

#### 川田章博 会員

今週の土日に「ばんば祭り」を行います。越智君、太  
田君、谷脇君らも現地にいます。応援に来て下さいね。

#### 鎌田裕樹 会員

天候が悪く、運転しづらい状況になっています。ス  
ピードの出し過ぎには十分に気を付けましょう。

#### 松田貴志 会員

ゴルフ同好会、10/3の特別例会優勝、年間優勝、年  
間ポイント優勝をいただきました。来年もよろしく  
お願い致します。

#### 立崎貴之 会員

西ロータリークラブ・ゴルフ同好会コンペ、準優勝  
しました。

#### 石原英樹 会員

今年度、ゴルフ同好会最終戦にてやっと花が咲きま  
した。真ん中賞獲得です。感謝!!

#### 北川勝啓 会員

先日の同好会最終コンペで馬券が当たりました。今  
年単式6-4で3回当たりました。

#### 谷脇正人 副幹事

三条100周年記念コンペで隠しホールが全部はまり  
優勝しました。

#### 柳沢一元 会員

河西十二郎杯ゴルフコンペで河西十二郎特別賞で自  
転車を頂きました。出前で使ってます。

#### 河西智子 委員長

ニコニコ発表させていただきました。

ニコニコ

10月8日

27,000 円

献金

累計

276,240 円 (10月8日現在)

#### ▶プログラム

国際奉仕委員会 増井信也 委員長



## 「ヘルスケアの海外展開について」

社会医療法人北斗 理事長 鎌田 一 様



十勝における第二次予防医  
療の展開について、くも膜下  
出血という疾患を例に説明い  
たします。くも膜下出血は5  
-7mmの大きさの脳動脈瘤  
の破裂により引き起こされま  
す。一回目の出血で25%前  
後の方が亡くなってしまいま  
す。二回目、三回目の出血で  
は殆どの方が亡くなります。

そのため二回目の出血を引き起こす前に緊急の外科  
的処置が必要とされます。もし、出血する前にこの  
小さな脳動脈瘤を見つけることができれば、開頭手  
術やカテーテルによる塞栓術(GDCコイルによる)な  
どで安全に処置することが可能となります。これらの  
処置により、くも膜下出血から患者さんは解放さ  
れることとなります。これが、くも膜下出血という  
疾患に対する<第二次予防医療>の実態です。

この様な<第二次予防医療>は21世紀の医療のク  
アとなるべきものと考えています。社会医療法人  
北斗は1993年1月18日に医療活動を開始しました。  
社会資源として医療活動を展開する事業体が目指す  
べきものは何か? それは正に、三大成人病に対す  
る<第二次予防医療>を実現する組織の構築と<第  
二次予防医療>の進化を展開することと私達は考え  
ました。

私達の事業理念を<地域に開かれた医療の展開>  
として位置づけ、啓発活動など院外活動に相当なエ  
ネルギーを注ぎ込むことが必要とされました。この  
活動の積み重ねにより、十勝19市町村の行政諸組織  
や、様々な事業組織との間で脳ドックなどの事業契  
約を結び、十勝における<第二次予防医療>の端緒  
を切り開くことができました。

私達もPETを核にした癌検診システムの構築に取り  
掛かりました。しかし、この時期は北海道拓殖銀  
行や山一証券などが破たんする、正に日本の金融シ  
ステムが崩壊する危機に陥っていた時でした。付帯  
設備も含め数十億円単位の資金が必要とされたので  
すが、当然のことながら資金調達は困難を極め、4年  
後の2002年に、日本の医療界では初めての資産の流  
動化を基礎にした新たなファイナンス・スキームを  
組成することにより、PETセンターの竣工が可能と  
なりました。

同時期に実現した、IMRTの専用放射線治療機器で  
ある<TomoTherapy>の導入は、私達にとって大きな  
意味を持つものとなりました。現在、診断・治療  
両側面におけるinnovationの連鎖は私達の胸を躍ら  
せます。10年の歳月と4000億円もの巨費を投じてな  
しえた<ゲノム・プロジェクト>の成果を、一日(数  
年内には数時間で可能となります)で、しかも数万円  
のコスト(数年内には数千円となります)で実現する  
塩基解析装置が今秋には商品として登場します。こ  
の改良機器は現在FDAに申請されています。

これらを患者さんの特性に合わせ、集学的治療とし  
て展開してゆくことにより、癌の臨床は大きく変えら  
れてゆくと考えます。私達は今春、集学的治療の要と  
して、温熱療法の治療機器である<Thermotron>を  
導入したところです。現在、日本では毎年120万人を  
超える方々が亡くなり、今後増加の一途をたどります。  
しかもその90%近くの方々が病院で看取られていま  
す。しかし、2025年に向けた医療・介護制度改革では  
病院・病床は減少してゆくこととなります。看取りの  
場が大幅に無くなるということです。この現実の中で、  
私達は<福祉村>構想として、12000坪の敷地を活用  
し、新たな緩和医療へ挑戦するため<今生の別れの場  
>を構築してゆきます。